

第2回 山形盲学校と上山高等養護学校の併置準備委員会【記録要旨】

- 1 日 時 令和3年11月29日(月) 10:00～11:00
- 2 場 所 県庁1201会議室
- 3 協 議

◇2校に共通する教育計画(案)について

基本理念1 地域と協働する学校

- ・上山市を中心に、交流、実習、情報発信を積極的に行う。
- ・地域の資源を活用した体験や共同の活動により、地域とのかかわりを深める。

基本理念2 働く力・生活する力を育てる学校

- ・一人一人の教育的ニーズに応じた主体的な学びを大切にする。
- ・分かる、できる喜びの体験を積み重ね、幼児児童生徒の可能性を引き出す。
- ・合同の行事や交流及び共同学習を通して、互いに認め合い、社会性を育む。

基本理念3 特別支援学校のセンター的機能を担う学校

- ・それぞれの学校が専門性を発揮し、学校や園等の要請に応じて支援する。
- ・校内外の相談や支援を通し、特別支援学校の地域ネットワークの核となる。

<主な意見、質問への回答等>

「地域と協働する学校」について

- ・二校併置は、校舎棟はそれぞれ独立しているが、二校の交流のしやすさ、地域の方を招いての交流のしやすさを考えて、二校の間に共有エリアを設置することを想定している。校名はそれぞれ、玄関もそれぞれあり、外部の方が共有エリアに入る入口は別にあるイメージである。学習環境はそのまま現状維持と考えている。
- ・二校が併置することで、両校の生徒が地域の企業の方との交流が広がればと思う。各校がそれぞれ取り組んできたものが相乗効果で色々なところに周知されるとよい。
- ・校名変更については、現段階では未定であり、これからの検討だと考えている。今後色々な方面から御意見を聞いて進めていくことになる。

「働く力、生活する力」について

- ・二校が併置になることで、進路の幅を広げる良い効果につながればと思う。また、どのような形であれ、互いの行事に参加したり、一緒に活動したりすることで、多くのことが学べるようになると思う。しかし、併置の良さがマイナスにならないように、障がいの特性に応じた教育環境の配慮が必要である。
- ・それぞれの学校において子供につけたい力をつけることができるように障がいに配慮した施設設備、環境整備が必要である。寄宿舎についても丁寧に進めて欲しい。交流については、可能な範囲でどういうものができるかを積み上げて行って欲しい。

「特別支援学校のセンター的機能を担う学校」について

- ・どのような施設が良いのか、子供や教育の実態と未来に望む姿を視野に入れながら教育計画案が具体的に考えられている。
- ・ICTの活用により、教育の可能性が広がっている。社会でもICT活用の必要性が出てくる。ICT活用の視点も設計時に入れて欲しい。
- ・地域のネットワークとして、卒業後の生徒の生活や働く上での配慮について情報共有しておくことが、福祉サイドの支援につながる。地域の関係機関と連携していくことで、卒後の暮らしの支援につながるようにしていければと思う。
- ・盲学校には、生まれた時から障がいのある方、中途障がいの方がいる。生まれた時から障がいのある方について、今後も継続して、見えないということから生じる情報不足を補うために必要なことや季節の行事等について教えてもらいたい。